

一般社団法人 弁護士業務デジタル化推進協会

LPDXオンラインセミナー

専門職の未来： AIは弁護士に何をもたらすか

2024年10月2日（水）18時よりLIVE配信（約90分）

主催：一般社団法人 弁護士業務デジタル化推進協会

<セミナー内容>

AIの利活用はさまざまな場面に広がり、幅広い職業で少しずつ仕事に変化しています。

AIは、弁護士の世界にどのような変化をもたらすのでしょうか。様々な専門職とAIに関する経営学の最新研究を元に、現状と今後の可能性を議論します。

後藤将史先生には、弁護士業務の変化について経営学の理論的視点からお話いただきました。

<セミナー概要>

1：AIに関する議論のポイント

- AIは人間に取って代わるのか？：あらためて Frey & Osborn (2013)とは
- AIはどのような原理で仕事を変えていくのか？：強化と自動化
- AIはユーザーから見てどう進化しているか？：生成AIによる変化
- AIの限界とは何か？：3つのチャレンジ

2：弁護士業界の現状と今後

- 今何が起きているか？

弁護士事務所の組織変化、メタ組織化、ビジネスモデル変化、採用の変化、異業種との共存に向けた業務仕分け等

- 誰が変化を起こしているのか？

主要リーガルテック企業、同業界の世界の動向、主体となる起業家(弁護士の越境)

- 今後の可能性として何が考えられるか？

生成AIの拡大、弁護士の分極化、顧客リテラシーの向上、パーソナルエージェントの浸透、専門スキル学習機会の喪失、アイデンティティーの変化 等

3：参考事例—新技術と専門職

- 医療とデジタル技術
- 会計監査とAI
- 図書館司書とweb検索
- ミュージシャンとシンセサイザー 等

■講師のご紹介

後藤 将史 [ごとう まさし] 先生

神戸大学経済経営研究所准教授。

東京大学法学部卒。INSEAD 経営学修士 (MBA)、オックスフォード大学経営研究修士 (MSc)、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 (博士 (経済学))。

民間企業の執行役員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授などを経て、2019 年より現職。

主な著書に、『グローバルで勝てる組織をつくる 7 つの鍵：人材活用の新戦略』(東洋経済新報社、2012 年)、

『グローバル人事改革の挫折と再生-制度論で捉える組織変革』(京都大学学術出版会、2018 年) などがある。

Research Policy、Journal of Professions and Organization (2021-22 Best Paper Award 受賞) その他の論文誌に学術論文を発表している。
